



シールド取り扱い上の御注意

お買い求めになった商品がシールド付きである場合、以下のことに気を付けてください。

- シールドを開けた状態での走行は大変危険です。緊急時以外、シールドは閉めて走行してください。
- スモークシールド・ミラーシールドは昼間走行用です。夜間やトンネルの中など暗い場所では視力が低下するため、クリアー・ライトスモークなどの明るいシールドをご使用ください。また、インナーバイザー付きのヘルメットの場合はインナーバイザーを使用しないでください。
- ネジで留めてあるタイプのシールドは、時々ネジを締め直しシールドの動きを調整してください。ネジが緩んだまま使用するとシールドが外れる恐れがあります。



ヘルメットの交換の目安は購入後3年間です

ヘルメットは、使用に伴い、老朽・劣化などの経時変化によって新品の時と同じ性能を維持できないこともあります。

購入後3年を過ぎたヘルメットは、事故の際十分な保護性能を発揮しない恐れがありますので、お早めに新品のヘルメットに交換してください。また、3年以内であっても、大きな衝撃を受けたヘルメットや破損、改造したヘルメットは事故の際に十分な保護性能を発揮しない恐れがありますので、新品と交換してください。



SGマーク制度について

ヘルメットに付けられているSGマークは、万が一ヘルメット（シールド等の付属品は含まない）に欠陥があり、製品安全協会の定めるSG基準に適合していないことが原因で、着用者がケガをした場合の身体的損害について賠償する被害者救済制度です。ただし、プロオートバイレースやサーカスなどの特殊な使い方をしている場合、アゴひもを締めないなどの誤った使用をしていた場合、SG基準が定めるヘルメットの性能を超える強い衝撃を受けた場合等の負傷などは賠償の対象となりません。

SGマークに関するお問い合わせ先は
一般財団法人 製品安全協会

〒110-0012 東京都台東区竜泉 2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪 2階
TEL.03-5808-3300 FAX.03-5808-3305 <http://www.sg-mark.org>

マルシン工業株式会社

〒123-0841 東京都足立区西新井7-19-12 TEL.03-5837-4417 FAX. 03-5837-4418
ホームページ <http://www.marushin-helmet.co.jp>



ご使用前に必ずお読みください

安全に正しくご使用いただくため、この取扱説明書をよくお読みいただき、いつでも見ることができる所に必ず保管してください



7-19-12 Nishiarai, Adachi-ku, Tokyo 123-0841, Japan
TEL.03(5837)4417
<http://www.marushin-helmet.co.jp>

ご使用上の注意

1 正しいサイズのヘルメットをお選びください

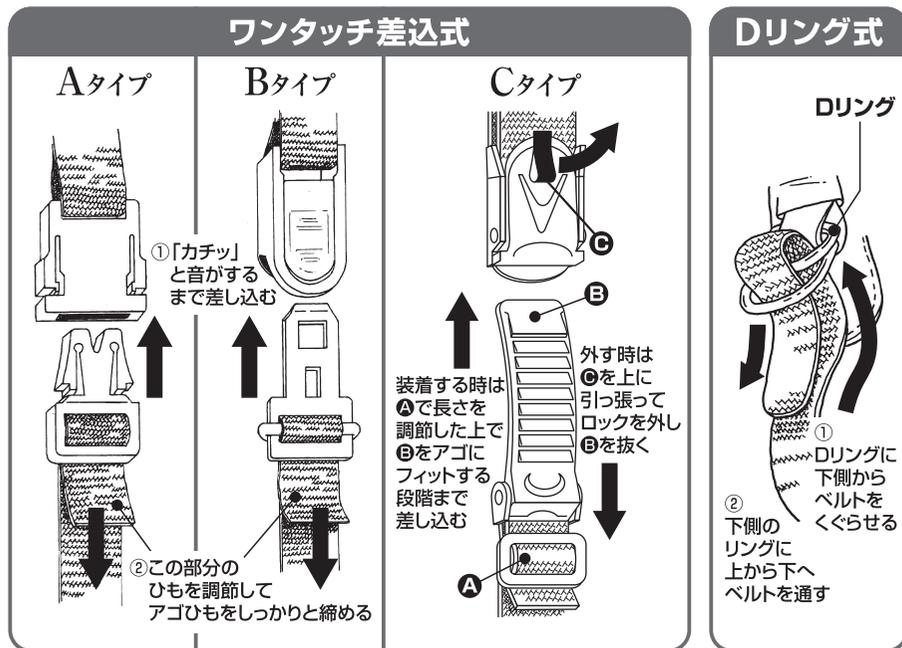
大き過ぎるヘルメットは走行中ぐらつき危険です。また、小さ過ぎるヘルメットは頭を締めつけ痛くなってしまいます。首を振っても簡単にはズレない頭に合った適切なサイズのものをお選びください。また、ご自分の頭のサイズに合わせるため、内装パッドの内側にウレタンフォームなどを入れていただいても結構ですが、その際は必ず両面テープで留めてください。市販の接着剤を使用されると、衝撃吸収体が溶剤の影響を受ける危険性があります。

2 正しくかぶってください

あみだ(後頭部に傾けて)にかぶったり、前に深くかぶったりすると、視界のさまたげや、万一転倒した場合、ヘルメットが脱げてしまう恐れがありますので、おやめください。内装は取り付けた状態でご使用ください。耳パッドなどの内装を外した状態で使用すると、ヘルメット本来の性能を発揮できず、大変危険です。チンガード(あご部分)が上下に動くフリップアップ式のヘルメットでは、チンガードを上へ上げた状態で走行することは風にあおられて危険です。チンガードは下へ下げた状態で走行してください。

3 アゴひもは正しくしっかり締めてください

頭を受ける衝撃の方向は一定ではありません。アゴひもは、万一の転倒時にヘルメットが外れないよう、しっかりと締めてください。(図参照)



4 大きな衝撃を受けたヘルメットは、外観上に損傷がなくてもそのまま使用しないでください

ヘルメットは大きな衝撃を受けると、その一部が壊れることによって衝撃を吸収し、頭を守るように作られています。従って衝撃を受けた後は、たとえ、外観にキズなどが無くてもそのまま使用しないでください。

5 ヘルメットは大切に取り扱いってください

床に投げつけたり、何かにぶつけたりすると、その度に衝撃を吸収するため、わずかとはいえ、性能が劣化していく可能性があります。ヘルメットを持ち運ぶ際は、ヘルメット内に荷物を入れないでください。衝撃吸収ライナーにキズがつき性能が劣化します。また、ヘルメットをオートバイのホルダーにつけたままの走行はおやめください。ヘルメットにキズをつけるばかりか、オートバイの操縦に支障を来すことがあり、たいへん危険です。

6 ヘルメットは高温(50℃以上)になる場所や、直射日光のあたる場所に置かないでください

夏の直射日光の当たる場所や車の中など50℃以上になる場所に置きますと、ヘルメットが変形したりして保護能力が低下したりします。

7 ヘルメットを改造することは危険ですのでおやめください

ヘルメットは頭を保護するために、より安全な材料、形状によってつくられています。従って、安全性の代償としてわずかとはいえ視界、聴力、運動性が損なわれる可能性があります。そのため材料を変更したり、穴をあけたりなどの改造を、絶対しないようお願いします。例えば、聴音孔をあけると風切音が大きくなりかえって聴力を妨げる場合がありますから、穴をあけたり、内部の発泡スチロールを削ったり、材料を変更したりなどの改造を、絶対しないようお願いします。またヘルメットの塗り換えは、ヘルメットの材質および内装などを傷め、品質の低下をまねくことがありますので絶対しないようお願いします。

8 ヘルメットのお手入れ

- ヘルメットの塗装面、シールド、ゴーグル、内装などの汚れを取る時は、ガンリンやベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。有機溶剤によってシールドなどプラスチックのひび割れ、曇りの原因となるばかりでなく、ヘルメット本体の性能も劣化する原因となります。塗装面、シールド、ゴーグルなどの汚れを取る時は水に薄めた中性洗剤とやわらかい布を使ってください。
- 内装を手入れする場合は、ぬるま湯を洗面器に満たし、中性洗剤を少量入れた中へタオルを浸し、固く絞った上で汚れを拭き取ってください。次に、真水ですすいだタオルで洗剤分をよく拭き取り、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。
- 取り外しできる内装の場合、洗濯は家庭用の洗濯洗剤を使用して、手でやさしく押し洗いし、良くすすいでください。次に、内装材を乾いたタオルなどで挟んで押し付けるようにして水分を取り除いてください。内装材を強く絞ると素材を傷めますので、絶対に行わないでください。乾燥は直射日光の当たらない風通しの良い場所で自然乾燥させてください。
- ヘルメットを乾燥させる際、長時間ヘルメットを直射日光に当てたり、ヘアードライヤーを使用すると、ヘルメットが熱・紫外線でヘルメットの性能が低下してしまうことがありますのでご注意ください。